

# 中国（上海）ビジネスサポート

## Monthly China News

\*毎月1回、定期的に中国より配信致します。

### 【政治・経済】

- **ASEAN・中日韓の先進製造業企業マッチング 協力意向額 6億ドル近く**：ASEAN（東南アジア諸国連合）と中国・日本・韓国（10+3）の先進製造業マッチング会が13日、オンライン形式で広西壮（チワン）族自治区南寧市で行われた。域内の企業100社余りが新エネルギー、新素材、機械設備、環境に優しい建築資材などの分野での協力をめぐるマッチング商談を実施し、協力意向52件が締結され、金額は6億ドル（1ドルは約147.1円）近くに達した。地域的な包括的経済連携（RCEP）協定が全面的に発効し、域内の製品、技術、人材、資本などの生産要素の自由な流動を力強く促進し、グリーンでスマートな先進製造業の発展を加速させることがASEANと中日韓の共通の目標になった。（8/14 人民網）
- **李強総理が世界ロボット博覧会を視察**：李強総理は8月25日、世界ロボット博覧会2024を視察し、「ロボット産業に関する習近平総書記の重要な指示の精神を貫徹・実行し、ロボットの発展の今後の趨勢と重要なチャンスを深く把握し、ロボットに関する科学技術革新と産業の発展を力強く推進し、新たな質の生産力の育成を加速し、発展の新たな原動力と優位性を形成し、民生の幸福を不断に増進する必要がある」と強調した。（8/26 新華社、人民網）
- **「中日就航50周年記念写真展」が東京で開幕 中日航空交流の忘れがたい瞬間を写真で回顧**：中国国際航空日韓地区支社、日本航空株式会社の主催による中日就航50周年記念写真展の開幕式が8月27日、東京で行われた。在日本中国大使館の施泳臨時代理大使、日本の鳩山由紀夫元首相、中国国際航空日韓地区支社の馮力支社長、日本航空の西原口香織執行役員、日中協会の瀬野清水理事長、日本写真家協会の熊切大輔会長、在日中国企業協会の王家馴会長、東京都日中友好協会の永田哲二副会長、世界華人撮影連盟の馮学敏副主席、各界の代表ら100人余りが出席した。（8/28 人民網）
- **中共中央対外連絡部長が日中友好議員連盟代表団と会談**：劉建超・中共中央対外連絡部長は27日、北京で二階俊博会長（自民党元幹事長）率いる日本の日中友好議員連盟訪中団と会談した。二階会長は「今回の訪問を契機に中国側と対話を深め、両国の関係当局間の意思疎通の強化を推進し、政治、経済、貿易、観光、人的・文化的分野などにおける両国間の交流と協力の深化、摩擦や溝の適切な処理と解決のために環境を醸成していきたい。日本側は与野党議員による訪中を積極的に推し進め、若い世代を中心に両国民間の友好的交流を強化することを望んでいる」とした。（8/28 人民網）

### 【製造業関連・関連の政策等】

- **中国、7月の製造業PMIは49.4%**：国家統計局によると、今年7月の製造業購買担当者景気指数（PMI）は前月比0.1ポイント低下の49.4%となり、製造業の景況感は基本的に安定していた。企業の規模別に見ると、大規模企業のPMIは同0.4ポイント上昇の50.5%、中規模企業は同0.4ポイント低下の49.4%、小規模企業は同0.7ポイント低下の46.7%だった。製造業PMIを構成する5つのサブ指数を見ると、生産指数は景気・不景気の分岐点となる50%を上回り、新規受注指数、原材料在庫率指数、従業員指数、サプライヤー配送時間指数は50%を下回った。（7/31 人民網）

- ・ **7月に新エネ車の中国国内販売台数シェアが初めて50%を超える**：中国自動車工業協会がまとめた最新のデータによると、2024年7月には、乗用車の国内販売台数が159万5,000台に上り、そのうち新エネルギー自動車が53.5%のシェアを占めて85万3,000台になり、初めて従来の石油燃料乗用車を抜いた。(8/19 人民網)
- ・ **中国7月の消費の安定成長**：商務部（省）が22日に明らかにしたところによると、今年7月には各レベルの商務主管当局が、消費財の買い換えの推進、サービス消費の質の高い発展の促進、消費の安定成長の推進に力を入れた。同月の社会消費財小売総額は前年同期比2.7%増の3兆7800億元（1元は約20.4円）に達した。商品消費を見ると、同月には商品の小売額が同2.7%増の3兆3400億元に上り、成長率は前月を1.2ポイント（p）上回った。サービス消費を見ると、1-7月にはサービスの小売額が同7.2%増加して成長率は同期の商品小売額を4.1p上回った。そのうち飲食サービスの小売額は同7.1%増の3兆600億元に達し、交通・移動サービスと通信・情報サービスの小売額は2桁の伸びを維持した。同時に、オンライン消費の伸びも好調だった。1-7月の実物商品のオンライン小売額は同8.7%増で、社会消費財小売総額に占める割合は25.6%だった。7月の宅配便取扱個数は同22.2%増の142億6,000万個に達した。(8/23 人民網)
- ・ **中国1-7月の一定規模以上の工業企業の利益が3.6%増**：国家統計局が8月27日に発表したデータによると、今年1-7月には、全国の一定規模以上の工業企業（年売上高2,000万元以上の企業）の利益が前年同期比3.6%増の4兆991億7,000万元に達した。成長率は1-6月を0.1ポイント上回り、安定した回復傾向が続いた。7月単月で見ると、全国の一定規模以上の工業企業の利益は同4.1%増となり、成長率は前月を0.5ポイント上回り、2ヶ月連続の加速を達成した。統計データを見ると、工業企業の営業収入が着実に増加した。1-7月の全国の一定規模以上の工業企業の営業収入は同2.9%増となり、成長率は1-6月から横ばいだった。(8/28 人民網)

## 【トピックス】

- 1、中国の「高速飛車」、低真空環境試験を完了**：山西省大同市陽高県高速飛車（真空チューブ列車）試験拠点がこのほど明らかにしたところによると、中国航天科工集团有限公司と山西省が共同建設する超高速低真空チューブ磁気浮上交通システム（以下「高速飛車」）フルスケール試験ライン（1期）プロジェクトが、山西省大同市陽高県で低真空環境におけるシステムインテグレーションデモンストレーション実証実験を完了するとともに、山西省科学技術庁の現場試験・検査に合格した。本プロジェクトは2022年4月に大同市陽高県で正式に着工し、航空・宇宙技術と地上鉄道交通技術を融合したもので、鉄道列車の超高速「低空飛行」を実現し、速度1,000km/hを達成することが目標だ。今回の試験は全長2kmのチューブ内で低真空環境を構築し、超電導飛行体を採用。試験結果によると、高速飛車は予定の制御カーブに基づき制御を受けながら走行し、安定的に浮上し、安全に停止した。最大航行速度と浮上高度は事前設定値と一致し、各システムが正常に稼働し、実際に測定した航跡が理論曲線とほぼ一致し、試験は成功した。将来的に高速飛車は超大都市圏間の交通輸送に使用されることが可能だ。北京・上海間は1時間半ほどで結ばれる。(8/6 科技日報、人民網)
- 2、中国の「千億区」「千億県」、全国のGDPへの寄与度は3割近く**：8月20日に発表された「2024年産業名区・産業名県の質の高い発展評価研究」報告書によると、2023年末現在、中国には地域の国内総生産（GDP）が1,000億元を超える「千億県（産業名県）」が58ヶ所、「千億区（産業名区）」が

143ヶ所あり、全国のGDPへの寄与度は28%を超え、「専精特新（専門化・精密化・特徴化・新規性）」の小巨人企業（高い成長性または大きい発展のポテンシャルを持つテクノロジーイノベーション中小企業）の31%以上を擁する。データを見ると、23年末現在、「千億県」は陸地面積で全国の1.17%を占め、全国のGDPへの寄与度は7.39%に上り、一定規模以上の工業企業（年売上高2,000万元以上の企業）の付加価値の約10%、「専精特新」の小巨人企業の約7%を占める。そのうち長江デルタ地域が33ヶ所に上り、「千億県」全体の56.89%を占めた。（8/21 人民網）

**3、中国独自開発の有人飛行船、省間移動を完了 飛行距離は1,000km近く：**中国航空工業集団が独自に開発したAS700有人飛行船「祥雲」が8月21日、初めて湖北省、湖南省、広西壮（チワン）族自治区を横断した。飛行距離は1,000km近く。湖北荊門から広西桂林への移行を順調に完了した。これは中国が独自に開発した有人飛行船が始まって以来達成した最長飛行時間、最長飛行距離。今回の飛行は「祥雲」による初の省間移行飛行で、飛行時間は計12時間44分、飛行高度は500-1,990m、飛行速度は60-80km/h。「祥雲」は完全に中国独自の知的財産権を持つ民間用有人飛行船で、グリーン・低炭素、安全・経済的、快適・美しいといった特徴を持ち、短距離・垂直離着陸が可能で、「低空+輸送・物流」「低空+スマート測量」「低空+緊急救助」「低空+都市警備」など複数のシーンで応用可能。（8/22 科技日報、人民網）

**4、大人気の中国発ゲーム「黒神話：悟空」 コラボ製品も熱い：**中国の古典小説「西遊記」の世界観をベースにしたゲーム「黒神話：悟空」が世界でリリースされると、多くのゲームプラットフォームで瞬く間に1位になった。8月23日午後9時現在、全プラットフォームでの販売が1,000万セットを超えた。これと同時に、各種のコラボブランドや関連グッズも次々に大人気となっている。（8/26 人民網）

## 【中国農業における最新科技情報】

### ・ 無人農場で再生稲栽培の一期目の収穫量測定を実施

湖南省作物学会が組織した専門家チームが8月7日、湖南省益陽市大通湖区にある再生稲無人農場で、再生稲栽培の一期目の収穫量測定を実施した。専門家チームによる評定の結果、このモデル農場における再生稲栽培の一期目の収穫量は、754.28キログラムだった。2023年に完成した大通湖区の再生稲無人農場では、農機作業の遠隔操作・制御システムが可能となっており、スマート農業プラットフォームを利用した水稲生産の全プロセスにおけるデータ収集と分析、およびAIによる農作業指示の決定と実行を実現し、二期目の苗の発芽促進や再生稲の収穫量と質の向上をバックアップしている。（8/7 新華網、8/8 人民網）

### ・ イイギリ「宇宙種子」第1弾の育苗が成功

中央テレビニュースにより、中国第1弾のイイギリの種が2023年、有人宇宙船「神舟16号」に運ばれ、宇宙育種を実施した。イイギリ宇宙育種拠点が今年4月、雲南省宣威市で設立された。最近第1弾の種の育苗が成功した。ナンテンギリとも呼ばれるイイギリは中国の重要な木本油糧樹種で、「木の油の貯蔵所」として知られており、適応性が高く、高速成長・高収量、高い油収率といった特徴を持っている。（8/9 中央テレビニュース、8/12 人民網）

### ・ 中国、アルカリ性土壌の生物改良技術で新たな進展

8月24日中央テレビニュースにより、中国科学院「黒土糧倉」テクノロジー集結メイン会場大安モデルエリアの吉林省長嶺県実験田で行われた生産量測定で、専門家チームは、マメ科の飼葉であるキバナ

ツノクサネムの栽培と全量圃場還元を経て、現地の土壌 pH が 10.14 から 9.57 に低下し、土壌の有機質が 10%以上増加し、最初の飼葉の 1 ムー（約 6.7 アール）当たり生産量が 2.03 トンだったと測定した。重度のアルカリ性荒地の効果的な改良が実現された。中国には約 3,333 万ヘクタールのアルカリ性土壌があり、その中には食糧増産のポテンシャルが最も高い東北松嫩平原ソーダ質土壌の 400 万ヘクタールが含まれる。このタイプのアルカリ性土壌は pH が高く、アルカリ性の乾燥地をはじめとして改良利用の難易度が極めて高い。この成果は中国のアルカリ性土壌の大規模開発・利用のためにグリーンで効率的な生物改良技術の基礎を固め、中国の食糧安全保障及び農業の持続可能な開発に対して重要な意義を持っている。（8/24 中央テレビニュース、8/29 人民網）

### 【イベント】

【出展募集中】 FBC 上海 2024in PTC 伝動展 2024 年 11 月 5-8 日 上海新国際博覧中心

【出展募集中】 FBC 深セン 2024in NEPCON 電子展 2024 年 11 月 6-8 日 深セン国際会展中心

【出展募集中】 FBC 上海 2024 ものづくり商談会 2024 年 12 月 5-6 日 上海マート

\*（公財）大阪産業局上海代表処は FBC ものづくり商談会の共催団体になっています。特別価格で出展可能です。

大阪産業局上海代表処 中国（上海）ビジネスサポート  
ファクトリーネットワークチャイナ（工場網信息科技（上海）有限公司）

上海市長寧区延安西路 2201 号 上海国際貿易中心 2 階 268 室